

(別表 1)

事業継続力強化支援計画

事業継続力強化支援事業の目標

I 現状

1 地域の災害リスク

(1) 水害

当町の地域防災計画によると、当町は相模灘に面しているため、台風来襲の場合には大雨による災害の他に高潮による災害があるとされており、高潮発生は、台風の経路の他に、潮位及び気圧低下による水面上昇にも関係し、満潮時と重なるような場合、危険性は高くなるとされている。

また、洪水等に際して特に注意を要する重要水防箇所に指定されている河川は、2級河川の保田川、佐久間川、元名川となっている。

当町には上記の河川の他、準用河川の小磯川、大六川や普通河川の七面川、吉浜川、山間部を背景にして多くの小河川及び支流があり、いずれも地形条件により河川氾濫を起こすおそれもあり、過去における水害は沿線耕地の被害と床下浸水が発生している。

(2) 土砂災害

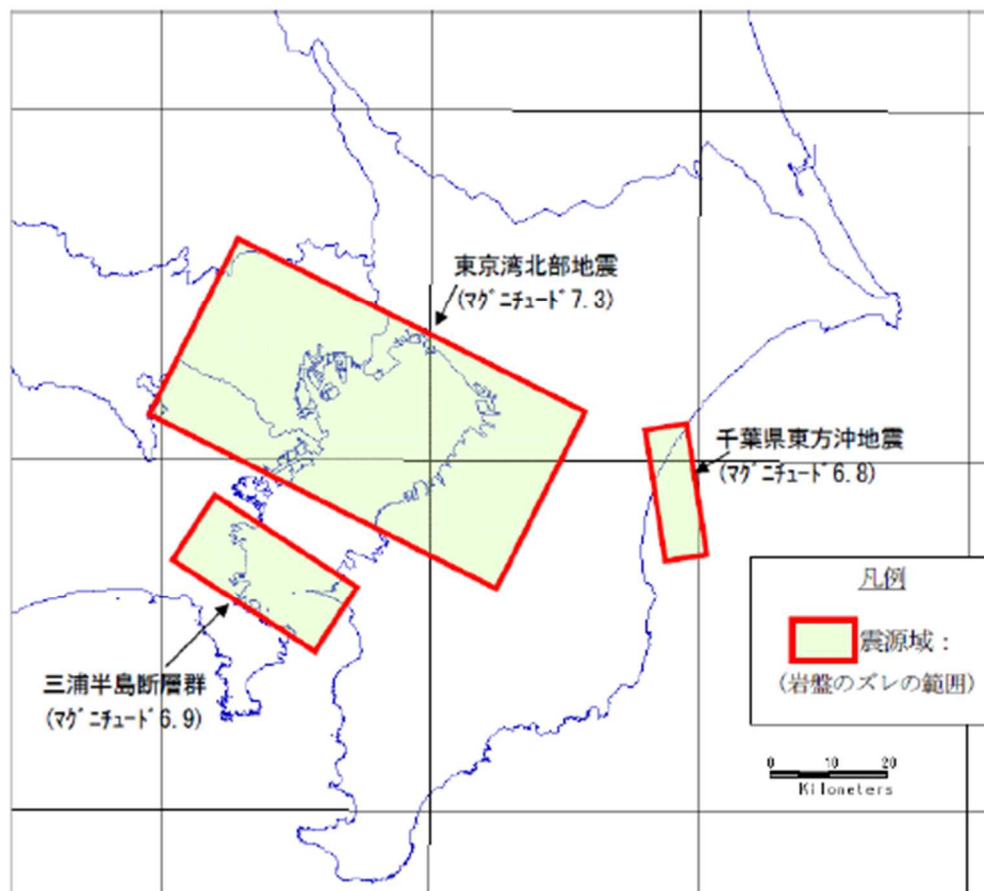
町の地域防災計画によると、当町は房総丘陵の南側斜面に位置し、標高 300m 程度の山地の影響により、風向きが山地に直行するときは地形性降雨を伴い、風上側の山地斜面では降水量が多くなり、土砂災害発生のリスクが高いことから、町面積の 45.17 k m² の約 3 分の 1 にあたる 15 k m² の地域に地すべり防止区域の指定がなされているほか、土砂災害（特別）警戒区域として 233 箇所の指定がなされている。

しかしながら、危険箇所の多くは商工業者が点在あるいは集積しているエリアから外れ、人口もまばらな地点となっている。

(3) 地震

当町の地域防災計画によると、千葉県が平成 19 年に発表した地震被害想定では、実際に発生のおそれがある地震として、マグニチュード 7 クラスの「東京湾北部地震」、「千葉県東方沖地震」及び「三浦半島断層群による地震」の 3 地震が想定地震とされている。このうち、「三浦半島断層群による地震」が当町に最も大きな影響を及ぼすとされており、建物や人的被害等は次のとおり想定されている。

建物被害	一部損壊 / 6,312	建物全壊 / 193
人的被害	死者 / 3人	負傷者 / 107人
避難者	2,009人	
帰宅困難者	1,439人	
自力脱出困難者	27人	
海岸堤防	一部で小規模な堤防沈下が発生	



(出典：鋸南町地域防災計画 第1編 総則)

(4) 津波

当町の地域防災計画によると、「東京湾北部地震」、「千葉県東方沖地震」及び「三浦半島断層群による地震」はいずれも津波の被害想定が小さいため、平成23年に発表された千葉県津波浸水予測図の中で最大級の元禄地震(200～300年に一度の発生)による津波を津波防災計画の対象としており、ハザードマップにより津波警報10mの浸水区域を公表している。

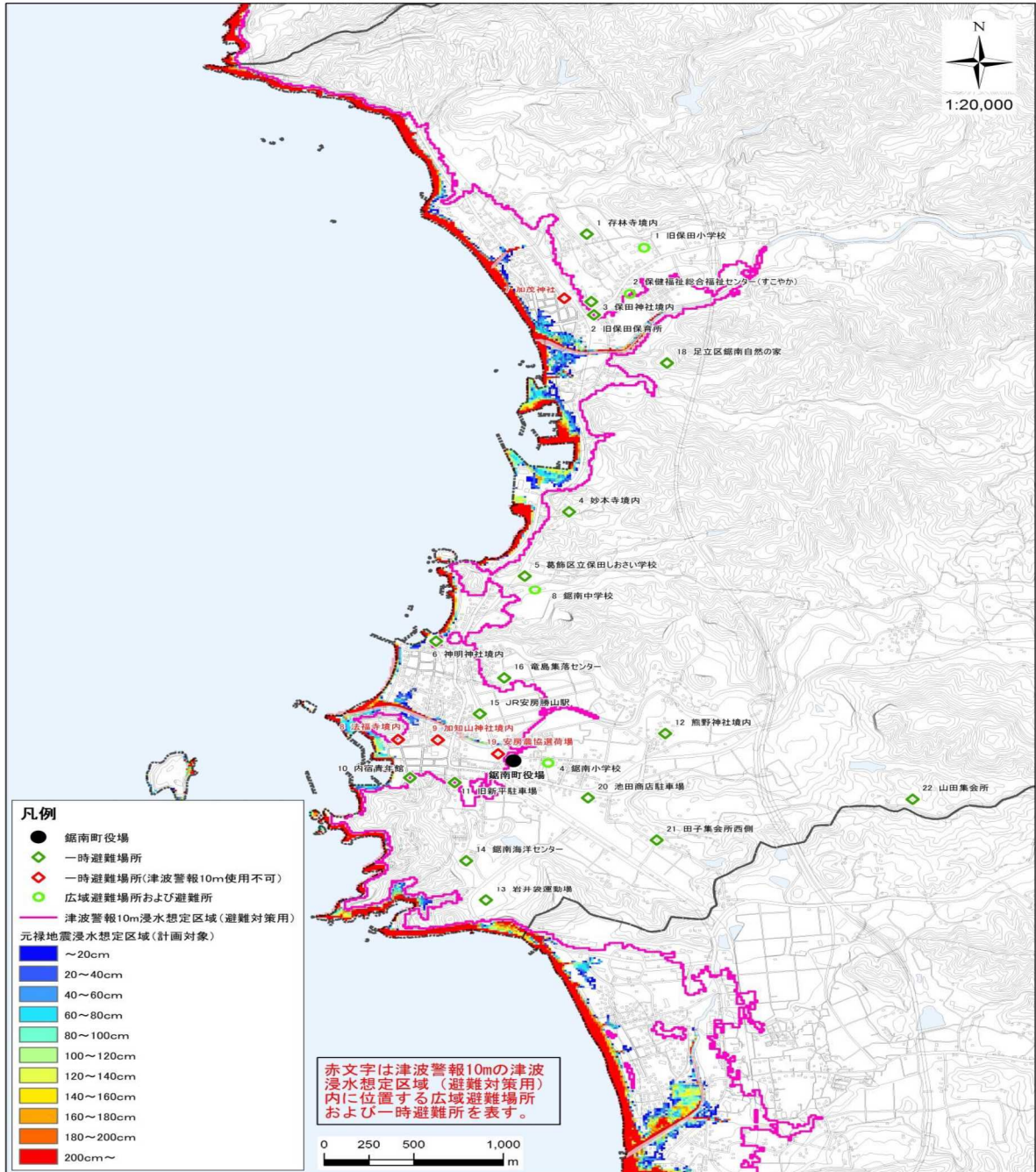
(5) その他

・令和元年「房総半島台風」

令和元年9月9日の台風第15号の暴風と豪雨により、家屋等の被害が3,346件になるなど、町内全域において家屋や農漁業施設などに甚大な被害が発生した。

令和元年台風15号被害

建物	全壊/104棟	大規模半壊/88棟	半壊/494棟	一部損壊/2660棟	
農業施設等	農地/40箇所	農道/2箇所	林道/9箇所	農業用ハウス/167棟	水産業施設/20箇所
ライフライン等	停電/約5,900軒	断水/約300軒	避難者/82人		



(出典：鋸南町地域防災計画 第1編 総則)

2 商工業者の状況（令和3年4月1日現在）

① 商工業者数 397（出典：鋸南町商工会による独自調査）

② 小規模事業者数 364（出典：鋸南町商工会による独自調査）

内 訳

業 種	商工業者数	小規模事業者数	備考(立地状況等)
建設業	64	63	町内に広く分散
製造業	28	27	点在
卸売業	13	11	点在
小売業	82	77	町内に広く分散
飲食業	56	55	町内に広く分散
宿泊業	13	12	町内に広く分散
サービス業	108	94	点在
その他	33	25	点在
合 計	397	364	

3 これまでの取組

(1) 当町の取組

① 鋸南町地域防災計画の策定

当町では、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第42条に基づき、町民の生命や財産を災害から保護することを目的に、鋸南町防災会議にて鋸南町地域防災計画を策定し、各種災害対策を実施している。計画は、全6編（総則、震災対策編、風水害等対策編、放射性物質事故編、大規模火災等編、公共交通等事故編）及び資料編で構成されている。

② 防災訓練の実施

大規模地震発生前の予知対応型訓練と応急復旧中心の発災対応型訓練を町、防災関係機関ならびに町民の協力のもとに一体となって総合的、実践的に実施している。

訓練項目は次のとおり

「災害対策本部設置訓練、情報伝達・広報訓練、避難訓練」

③ 防災備品の備蓄

当町では、町民や自主防災組織、事業所等に対し、「自らの命は自らで守る。自らの地域はみんなで守る。」という自助・共助の考え方を基本に、平時から、災害時に必要な物資の備蓄を推進するよう働きかけるとともに、町民の生命や財産を守るため、災害発生直後から被災者に対して円滑に必要な物資等の供給が行えるよう、備蓄・調達ならびに物流に係る体制の整備を図っている。

④ 備蓄倉庫の整備

備蓄倉庫は町内に6箇所設置しており、備蓄品の充実を図るとともに、非常用の飲料や食料については賞味期限前に入替えを行うなど、在庫管理を適切に行っている。食料品、毛布等の物資の他、自然災害や停電等に備えて、発電機

や投光器などの防災用資機材を各倉庫に備蓄している。

(2) 当会の取組

- ① B C P（事業継続計画）に関する各種施策の周知
- ② 損害保険会社（千葉県火災共済協同組合等）と連携した損害保険への加入促進
- ③ 被災事業者に対する各種補助金申請の支援（小規模事業者持続化補助金や県の災害復旧補助金等）
- ④ 日本政策金融公庫や県・町などの公的な各種融資制度の斡旋
- ⑤ 発災時の商工業関係被害状況調査及び情報収集

II 課題

- 1 当町の防災計画では、総則において「その他の防災関係機関における業務または業務の大綱」の中で商工会の取り組むべき内容が記載されているが、その内容は
(1) 「災害時における物価安定についての協力に関すること」
(2) 救助物資、復旧資材の確保、あっせんに関すること
(3) 被災会員等に対する資金の融資あっせんに関すること
についての記載にとどまっている。災害が多発している近年の状況下において被災からの早期の復旧・復興を目指し、経済的被害を最小限にとどめるためには、当町と当会の間における緊急時のより具体的な取組みや協力体制等の構築等が必要となっている。
- 2 当会職員が被災した場合に機動力を失うことになるため、千葉県商工会連合会等との応援体制の構築等が必要となっている。
- 3 B C P（事業継続計画）を策定している小規模事業者はフランチャイズに加盟しているコンビニ等のごく一部に限られており、小規模事業者のほとんどが策定していない。
- 4 災害に関する平時・緊急時の対応（各種損害保険やB C P（事業継続計画）の作成等）を推進するノウハウを持った人員が不足している。

III 目標

- 1 発災時における連絡を円滑に行うため、当町と当会との間における被害情報報告ルートを構築する。
- 2 発災後、速やかな復興支援策が行えるよう当会における体制と千葉県商工会連合会等の関係機関との連携体制を構築する。
- 3 B C P（事業継続計画）策定率の向上に向けて、地区内小規模事業者に対して災害リスクの認識と事前対策の必要性を周知する。
- 4 各種研修会へ当会経営指導員を派遣し、各種損害保険やB C P（事業継続計画）作成等を推進するためのノウハウや知識の習得を通じて資質の向上を図る。

※ 上記内容に変更が生じた場合は、速やかに千葉県へ報告する。

事業継続力強化支援事業の内容及び実施期間

I 事業継続力強化支援事業の実施期間(令4年4月1日～令和9年3月31日)

II 事業継続力強化支援事業の内容

1 事前の対策

(1) 小規模事業者に対する災害リスクの周知

- ① 当会職員（経営指導員等）による巡回指導時に、ハザードマップ等を用いて事業所立地場所の自然災害等のリスク及びその影響を軽減するための取組や対策について説明する。
- ② 町広報や商工会報、当会のホームページ等において、国・県の施策の紹介や各種損害保険の概要、BCP（事業継続計画）を策定した小規模事業者の事例紹介等を行う。
- ③ BCP（事業継続計画）策定の専門家を招へいし、小規模事業者を対象にBCP（事業継続計画）策定個別相談会を開催する。
- ④ 当会経営指導員による巡回指導時に、中小企業等経営力強化法に基づく「事業継続力強化計画」の申請等に関する支援を実施する。

(2) 商工会自身の事業継続計画の作成

令和3年度に危機管理マニュアルを策定

(3) 関係団体等との連携

- ① 損害保険会社等と連携し、小規模事業者を対象に損害保険加入説明会や損害保険見直しのための個別相談会を開催する。
- ② 金融機関等の関係機関へハザードマップや損害保険への加入に向けた各種ポスターの掲示、パンフレットの設置を依頼する。
- ③ 被災した小規模事業者が低金利融資を受けられるように、金融機関と協力、連携を図る。
- ④ 被災した小規模事業者が事業設備等を早期復旧できるように優先的な修繕・修理に向けて建設・設備等の関連団体と連携する。

(4) フォローアップ

- ① 中小企業等経営力強化法に基づく「事業継続力強化認定企業」に対してその取組み（策定したBCP計画の遂行）を支援する。
- ② BCP（事業継続計画）策定個別相談会に出席した小規模事業者に対して専門家を派遣し、BCP（事業継続計画）策定に向けて具体的に支援する。
- ③ 当会に事業継続力強化支援協議会（構成員：当町担当者、当会正副会長）を必要に応じて設置し、小規模事業者のBCP（事業継続計画）への取組み状況等について協議する。

(5) 当該計画に係る訓練の実施

年に一度、様々な自然災害（マグニチュード7の地震等）が発生したと仮定し、当町と当会とで連絡ルートの確認等を実施する。なお、毎年当町主催による大規模な防災訓練が実施されるため、当該計画に係る訓練は必要に応じての実施とする。

(6) 防災備品の購入

毎年度、当会財源の可能な範囲内で自然災害等による停電等に備えて防災備品を本計画期間中（令和4年度から令和8年度）に購入する。

種類	個数	種類	個数
ヘルメット	5	懐中電灯・ランタン	5
軍手	10	乾電池	20
安全靴	2	携帯ラジオ	1
作業用ゴム手袋	2	ポータブル電源	1
雨具	5	非常用給水バッグ	3
ポリ袋・ラップ	20	救急セット	1
ガムテープ	5	ライター	2
タオル	10	防虫スプレー	1
衣類	10	箱ティッシュ	10
毛布	5	非常用簡易トイレ	20
防寒具（カイロ含む）	10	トイレットペーパー	10
飲料水	2箱（12本）	持出し電子データ	1
保存食	35食	消毒液	5
簡易食器	35食	マスク	500
		消毒ティッシュ	5

なお、年度毎の購入備品の詳細については、年度毎に検討する。

2 発災後の対策

自然災害等発災時には、下記の手順で地区内の被害状況を把握し、関係機関へ連絡する。

(1) 応急対策の実施可否の確認

① 当会事務局責任者は、発災後3時間以内に職員緊急連絡網やSNS等により、職員の安否と業務従事の可否を確認する。

※事務局責任者が被災した場合は次席の者等が職員緊急連絡網等を指揮する。

② 業務従事が可能な当会職員が把握した大まかな被害状況（家屋被害や道路状況等）は当町と当会で共有する。

(2) 応急対策の方針決定

① 当会職員の自然災害等発災時における出勤は次のとおりとする。

(ア) 職員自身の目線で命の危険を感じる降雨状況の場合は、出勤せず、職員自身がまず安全を確保し、警報解除後に出勤する。

(イ) 道路の陥没や崖崩れ等により交通の遮断等がある場合は、出勤せず、安全が確認された後に出勤する。

(ウ) 家族が被災した場合は、出勤せず家族の身の安全が確保された後に出勤する。

- ② 当会職員全員または大多数が被災等により応急対策に従事できない場合の役割分担は次のとおりとする。

地区名	役職名	人数	応急対策の内容
佐久間地区	理事	2人	大まかな被害状況の把握等
勝山地区	理事	2人	〃
保田地区	理事	2人	〃

- ③ 当会による大まかな被害状況の把握は2日以内に実施し、その状況を当町と当会で共有する。

(鋸南町と鋸南町商工会で共有する被害規模等の目安)

被害規模	被害状況
大規模な被害がある	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内10%以上の事業所で、「瓦が落ちる」、「窓ガラスが割れる」等、比較的軽微な被害が発生している。 ・地区内1%以上の事業所で、「床上浸水」、「建物の全壊・半壊」等大きな被害が発生している。 ・被害が見込まれている地域において連絡が取れない、もしくは、交通網が遮断されており、確認ができない。
中規模な被害がある	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内5%程度の事業所で、「瓦が落ちる」、「窓ガラスが割れる」等、比較的軽微な被害が発生している。 ・地区内0.5%程度の事業所で、「床上浸水」、「建物の全壊・半壊」等大きな被害が発生している。
被害がある	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内1%程度の事業所で、「瓦が落ちる」、「窓ガラスが割れる」等、比較的軽微な被害が発生している。 ・地区内0.1%程度の事業所で、「床上浸水」、「建物の全壊・半壊」等大きな被害が発生している。
ほぼ被害はない	<ul style="list-style-type: none"> ・目立った被害の情報がない

※連絡の取れない地域は、大規模な被害が生じている可能性があると考え。

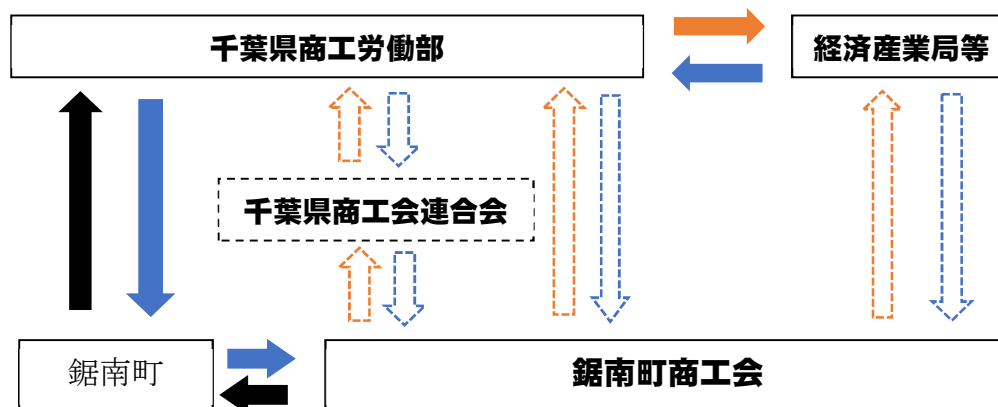
- ④ 鋸南町と鋸南町商工会は災害時、以下の間隔で被害情報等を共有する。

発災後～1週間	1日に2回以上共有する。 必要に応じて追加する
2週間～3週間	1日に2回共有する
3週間～1ヶ月	1日に1回共有する
2ヶ月以降	2日に1回共有する

※電話・FAX・メール・携帯等による通常の連絡が不通の場合には商工会が直接町役場を訪問し、被害情報等を報告する。

3 発災時における指示命令系統・連絡体制

- (1) 自然災害発生時における地区内の小規模事業者の被害状況の迅速な報告及び指揮命令を円滑に行うための連絡ルートは次のとおりとする。



※塗りつぶしの矢印が主たる情報収集・連絡ルート

- (2) 二次被害を防止するための被災地域での活動は次のとおりとする。
当町及び当会からの要請等に基づき、当会の役員と職員が二次被害を防止するための諸活動を実施する。

※役員は被災地域以外の者とする。

- (3) 当町と当会は被害状況の確認方法や被害額（合計、建物、設備、商品等）の算定方法について次のとおりとする。

① 確認方法

当会の役員及び職員で構成する「災害復旧支援班」を地区ごとに組織し、被災事業所を実訪してヒアリング調査等を実施する。

構成員／班長：役員1名 班員：役員1名、職員1名

※役員は被災地域以外の者とする。

② 被害額の算定方法

被害額（合計、建物、設備、商品等）の算定方法について、当会と当町であらかじめ確認しておく。なお、国や県から指示があった場合は、その指示に基づいて算定する。

- (4) 当町と当会が共有した上記の（2）及び（3）の情報は千葉県の指定する方法にて原則として当町より千葉県へ報告し、当会より千葉県商工会連合会へ報告する。

4 応急対策時の地区内小規模事業者に対する支援

当会による支援は次のとおりとする。

- (1) 当会の電源を携帯電話充電のために開放する。
- (2) 必要に応じて当会の機材の貸出しや配布を行う。
- (3) 経営や資金繰り等の相談窓口の開設について鋸南町と相談し、安全性が確認された場所において相談窓口を設置する。

- (4) 当会は、国から依頼を受けた場合は、安全性が確認された場所において経営や資金繰り等の特別相談窓口を設置する。
- (5) 前記3の(3)で収集した被害状況等をもとに、地区内小規模事業者等の被害状況の詳細を確認する。
- (6) 応急時に有効な被災事業者施策(国、県、町の施策)を地区内小規模事業者等へ周知する。
- (7) 地区内小規模事業者等向けに被災事業者施策(国、県、町の施策)の説明会及び個別相談会を開催する。

5 地区内小規模事業者に対する復興支援

- (1) 千葉県の方針に従って、復旧・復興支援の方針を決め、被災小規模事業者を支援する。
- (2) 被害規模が大きく、被災地の職員だけでは対応が困難な場合は、他の地域からの応援派遣等を千葉県商工会連合会等に相談する。
- (3) 被災小規模事業者が小規模事業者持続化補助金や復興助成金、給付金等を申請する場合の書類作成等を支援する。
- (4) 日本政策金融公庫・千葉県制度融資等の融資を斡旋する。
- (5) 事業再建計画の策定を支援する。

6 感染症対策

新型コロナウイルス等の感染症対策は次のとおりとする。

(1) 事前の対策

- ① Web会議や交代勤務(在宅勤務)の導入に向けて必要なパソコン等の機器や通信環境等を整備する。
- ② 消毒液やマスク等を事前に購入して備蓄する。
(注) 前記Ⅱの1の(6)の主な防災備品購入一覧に記載のとおり

(2) 流行時の対策

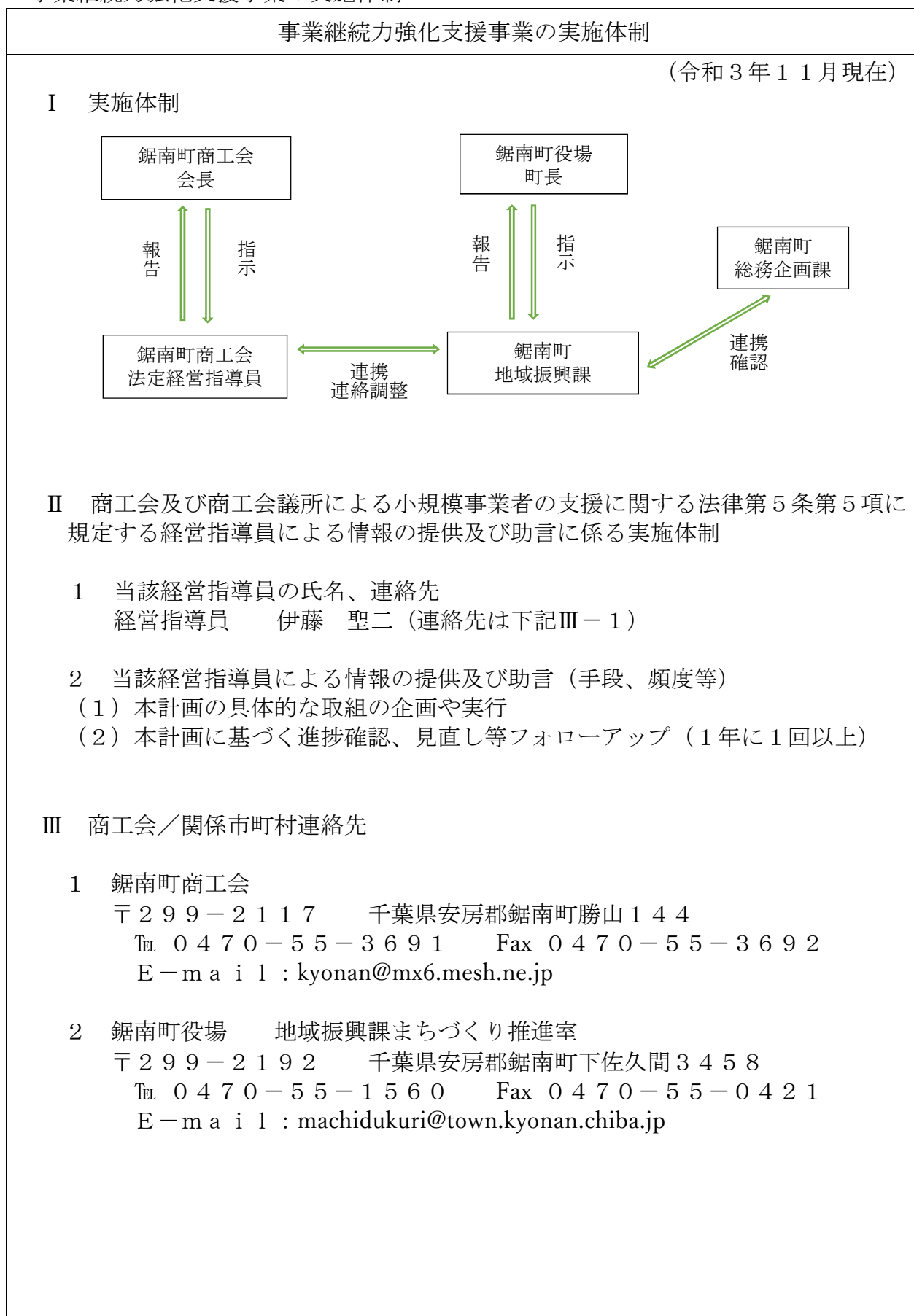
- ① 当会職員をグループごとに編成し、交代勤務(在宅勤務)を導入する。
- ② 通常総会、理事会及び正副会長会議等の商工会の管理・運営に必要な会議は書面議決とする。
- ③ 消毒液やマスク等が不足している小規模事業者へこれらを配布する。
- ④ 当会職員のいずれかが感染した場合は県や保健所等の指示に従うものとし、場合によっては事務所を閉鎖する。

7 その他

上記内容に変更が生じた場合には、速やかに千葉県に報告する。

(別表 2)

事業継続力強化支援事業の実施体制



(別表 3)

事業継続力強化支援事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

(単位：千円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
必要な資金の額	300	200	200	200	200
BCP策定個別 相談会開催費 通信費他	150	150	150	150	150
防災備品 購入費	150	50	50	50	50

調 達 方 法

会費収入、事業収入、手数料収入、千葉県小規模補助金、町補助金等